



「凜とした空気が漂う、聖なるミカエルの山」

モンサンミッシェル／ノルマンディー（フランス）

フランスで最も有名な世界遺産は、やはりモンサンミッシェルでしょう。

「トンボロ現象」と云われる大潮は、満潮時には完全に陸地と隔離され、干潮時には陸地の一部と化すのですから、神秘的な美しさには驚嘆します。毎年300万人以上の観光客や巡礼者がこの修道院を訪れていますから、世界的な観光地となっています。

西暦708年に近郊のアブランシュの司教オベールは、大天使ミカエルが夢枕に立ち、礼拝堂を立てるようにお告げを受けたと云われますから1300年の歴史を有します。モンサンミッシェルはある時は修道院であり、フランス革命時には牢獄となり、百年戦争時には鉄壁の要塞と化すのですから長い歴史を歩んでいます。そして島内には木組みの家々が立ち並び、石畳の路地には中世の趣を残し、歴史に翻弄されながらも修道院として、またカトリックの巡礼地の一つとしての役割を

今なお維持し続けています。

ラヴァンセ門をくぐるとグランド・リュウと云う参道が修道院の入口まで続きます。有名なブラールおばさんのオムレツのお店や沢山のお土産物屋さんなどがところ狭しと立ち並び賑やかです。

しかし、そんな島も周囲は砂州に囲まれてしまい、サンマロ湾の生態系を維持する目的から8年の歳月を掛けて2014年に760mの橋で繋がりました。私も何度かこの地を訪れましたが、当時は陸続きで観光バスが目の前の駐車場まで連れて行ってくれましたから、橋で繋がった今の風景がピンときません。

私の思い出は、オムレツも良いのですがサフォーク羊のラムチョップの美味さです。塩味の利いた草を食べているのでしょうか？塩加減が絶妙でした！島の郵便局で買い求めた切手。そして、オテル・ド・ツーリスモで買い求めた記念のバッジが宝物です。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
2018年開催「第69回 全国カレンダー展」に10度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索